

研究課題: 養護教諭が取り組むべきヘルス・プロモーション・スクールに関する研究

研究代表者: 鈴木一宏

現在の日本における学校現場では WHO が提唱したヘルス・プロモーション・スクール(以下、HPS と略す)が浸透しておらず、学校や養護教諭は独自の努力で学校保健活動を行っているのが実情である。そこで本研究では、まず「研究 1」として海外の学校等に聞き取り調査を行い、現地学校における HPS の実態、さらに海外現地における子どもの健康問題に対して、HPS を推進している学校ではどのように対処しているか、健康教育や学校保健活動の実践について調査した。また、海外の学校には養護教諭は存在せず、スクールナースという看護師の資格を持った職員がおかれている。そこで海外におかれている日本人学校の養護教諭にも着目し、海外からみた日本独自の養護教諭に関する内容や必要性についてもインタビュー調査を行い、日本独自の養護教諭の必要性についても検討した。一方、日本を含む近年のアジアでは肥満、睡眠不足が深刻化している。その原因として運動、食習慣、進学主義による学歴社会などが挙げられる。特に、運動をする環境が乏しく、また夜遅くまで塾通いが盛んな台湾においては、子どもの体力低下が懸念される。そこで、「研究 2」では HPS が盛んに行われている海外の現地生徒の生活習慣および運動習慣に関するアンケート調査および防衛体力の検査を行った。

「研究 1」として上海および香港の現地学校等について調査を行った結果、上海では HPS という言葉自身が全学校には浸透していない可能性も窺えた。しかしながら、上海では小学生から大学生まで「サンシャインスポーツ」という政策により毎日 1 時間以上の運動が遂行されていた。また、上海の学校現場に配属されている保健師は日本の養護教諭と同様の立場にあり、健康教育にも携わっているようである。一方、香港では HPS の取り組みが浸透しており、「常識」という時間で健康教育に関する取り組みを行っていた。しかし、現地の日本人学校の養護教諭は香港で取り組んでいる HPS については全く理解していなかった。なお、日本人学校の全ての養護教諭が海外の日本人学校には養護教諭が必要であると回答した。次に「研究 2」として行った台湾の中高における調査結果から、学歴社会にある台湾の中高生は睡眠時間が短い生徒が多く、また睡眠時間が短い者ほど主観的な疲労が高くヘモグロビン値も低いことが明らかとなり、防衛体力の低下も懸念された。